

## 知床五湖の利用のあり方協議会（第3回）議事録

1. 場所：知床世界遺産センターレクチャールーム

2. 日時：平成21年7月28日 14:00～17:30

3. 出席者：別紙のとおり

### 4. 配布資料

1-1：知床五湖利用のコントロール実験（第2回）実施報告

1-2：知床五湖利用のコントロールにおける課題整理表

1-3：ガイドに対する研修・検定に関するアンケート結果

1-4：きよさと観光協会からの意見書

1-4-2：北海道山岳ガイド協会からの意見書

1-5：モニターツアーでのアンケート結果

2-1：知床五湖における利用コントロールの法的担保措置について（案）

2-2：利用調整地区制度について

2-3：知床五湖に利用調整地区を導入した場合の管理体制と責任分担

3-1：植生保護期利用のコントロール案

3-2：植生保護期の歩道の周回方向について

3-3：植生保護期の地上部歩道利用者数

4-1：知床五湖受付施設案

4-2：知床五湖受付施設整備スケジュール

5-1：高架木道の終点展望台の形状・構造

5-2：高架木道の標識

6：今後のスケジュール

7：知床五湖の利用のあり方協議会（第2回）議事録

参考資料：（仮）知床五湖パークサービスセンター整備検討案

## 5. 議事概要：

### (1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

H22年度から新しい五湖の利用システムをスタートすべく検討を進めてきたが、旅行業界等への周知時間不足などいくつかの課題があるため、1年の先送りを事務局で検討中。本日協議したい。6月の利用コントロール導入実験の際のアンケート調査では、設問内容や実施方法等、不手際がありご迷惑をお掛けした。お詫び申し上げます。

### (2) 議題1. 利用調整の準備・検討状況について

#### ①利用のコントロール実験の結果

**知床財団**：資料1-1、2に基づき、「コントロール実験」の結果について説明。

**愛甲哲也准教授、庄子康助教**：資料1-3、5に基づき、「コントロール実験」に関するアンケート結果を説明。

**環境省**：資料1-4、4-2に基づき、認定ガイド制度に関する意見を説明。

ガイドシステムについては、部会を設けて、今年度詳細な検討を行うことを提案。

**北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）**：北海道山岳ガイド協会の事務局は、このガイドシステムの非常に排他的な部分について不信感があり、これが全国的に広がった場合、ガイドにとってかなりのダメージになると考えている。今後の議論の中で、認定ガイドではないシステムについても検討する余地があるのか。

**環境省**：どういう方をヒグマ活動期の認定ガイドとしていくかは、今後の議論になる。ヒグマ活動期について、認定ガイドを付けないということは考えていない。

**北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）**：山岳ガイド協会事務局としては、この五湖でのガイドシステムをつぶしたいと考えている。今後地元以外のガイドが知床に入れなくなるという印象があり、他の地域のガイドからの評判が悪い。北海道と環境省は、現在所管しているものと、全く別なガイド資格を認定するということに対してきちんとコンセンサスが取れているのか。ローカルなガイド資格が先走りすることを危惧する。そして、引率者についてガイド以外の人でも対応できるのか、という部分について今後検討の余地を残してほしい。資格制度の部分は、日本のガイド制度の根底を揺るがしかねない問題であり、きちんと確認してほしい。

**知床ガイド協議会**：ガイド協議会としても、以前から引率者をガイドと呼ぶことについては賛成しておらず、一般の職業ガイドとは違うということを明確にする他の呼び方を検討してほしい。

**知床エコツーリズム推進協議会**：検討部会でそれぞれの課題を協議すると言われたが、スケジュール的には間に合うのか。

**環境省**：22年度スタートを考えるとこの秋頃までには方向性を決めなければならない

い。

**知床エコツーリズム推進協議会:**これから忙しいシーズンに入り、会議の開催は難しく、22年スタートは難しい。レクチャー施設の整備も必須だが、現段階で計画が出来ていない状況であり、来年のスタートは見えにくい。

**環境省:**事務局としてはスケジュール的に、非常に厳しいと考えている。22年度スタートが前提で議論してきたが、利用のコントロール導入実験を実施してわかった課題や、また施設関係の課題、そして観光面から、前年夏までにきちんと新たなシステムを示して広報をしていかないといけないということがある。必ずしも22年度のスタートを行うということではなく検討していきたく。

**斜里町:**先ほどのご意見に関連してお聞きしたいが、例えば「こういうのがガイドである」というガイドのスタンダード的なものはお持ちなのか。それがあれば、それとの整合性を図れるよう議論ができると思う。またネーミングについては、「ガイド」という名前に固執するのではなく、極端に言えば、自然解説ができなくてもヒグマ管理の機能を保てばよいという組み立てだったと思う。どんな名前がいいのか、この場で議論したい。それから地元のガイドさんは先ほどの（山岳ガイド協会の「排他的」という）ご意見についてどのように考えているのか聞かせてほしい。

**知床ガイド協議会:**以前、ヒグマの対処法を学んだ人は、ガイドができようと思えば、認定者として立ち入りを認めてはどうかと提案した。ガイドをする場合は、何人まで引率できるというような2段階で考えてはどうか。ガイドの中では現在提案されているシステムはかなり評判が悪い。

**斜里町:**具体的に何について評判が悪いのか。

**知床ガイド協議会:**利用の規制が入るということであり、一部の事業者が独占しようというイメージがマイナスイメージになっている。外から見ると、もう知床には入れないという印象があり、風評被害が非常に大きい。地元のガイドとしては、誰もが入れられる場所で、より充実した旅行をしてもらうためにガイドがおり、独占するためではないというイメージは守って欲しい。

**北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）:**現在、これまで色々あったガイドの認定制度を、日本山岳ガイド協会にまとめていこうという形になっている。ところが、一方でローカルなガイド認定というのが、あちこちで見受けられる状況にもあり、どこも排他的なものになってしまう傾向である。この五湖のガイド認定システムでは、ガイドに事故があった場合、誰が責任を取るのか。

**しれとこ・ウトロフォーラム21:**今の（山岳ガイド協会の）ご意見、非常に理解できる。確かに、排他的な部分があるが、受け入れる地元の能力の限界がある。まず知床のルールをつくり、不都合な部分は外からの意見を取り入れ、試行錯誤しながら進める必要がある。

**知床エコツーリズム推進協議会:**エコツーリズムを実行する中で、ガイドの役割は大き

いと考えるが、ガイドという概念自体が難しい。これまで曖昧だった、社会的なポジションをどう確立するのかが求められている。五湖の場合は、「知床のクマガイド」であり、言い方を明確にすれば良い。今後「ガイド」と「五湖のガイド」の両者を明確に分け、混乱を避けることが必要。

**環境省：**資料1-1に記載のガイド研修の内容は、ヒグマ対策に特化したものである。

ヒグマ対策に特化した研修を受けた人を「ガイド」と呼んでいる事に対して混乱が生じているように思う。名称については議論をしていく必要がある。

**知床財団：**以前「五湖レンジャー」という名前を提案したが、格好悪いということで却下された。名称と合わせ、ガイドの募集要項についても検討する必要がある。

**知床民宿協会：**清里の観光協会からの意見書は大変良いことが書かれている。知床に入れないというイメージになると、我々業者としては非常に厳しい。カムイワッカ、硫黄山も使えるように何か道筋をつけてもらいたい。名称としては、清里の意見書にある「ヒグマ対処レンジャー」という名前は非常に良い。また重要なことは何よりもクマの安全対策である。もう少し時間をかけて検討が必要である。

**環境省：**安全対策は正解がなく、やりながら中身を変えていくことが必要。

**知床民宿協会：**知床財団は必ず銃を携帯しているが、ガイドは持てないのか。

**環境省：**銃に関しては、いろいろ規制があり難しい。

**斜里町：**その件は、ここ10年来議論をしてきた事でもある。五湖については、銃を持ってクマを押しつけてまで入っていく場所ではないという大前提がある。知床財団が銃を持っているのは管理運営上の必要性によるものであり、お客さんを案内するために銃を携帯する場所ではない。安全対策として遊歩道を閉めてしまう選択肢もある中で、なんとか利用できないかということを検討している。銃を持つことで、もしかしたら安全度は変わるかもしれないが、五湖はそういった場所ではないという整理である。

**斜里町：**これまでの議論や意見書をみると、ガイド引率利用があたかも今後の五湖の利用システムのすべてであるような印象を受ける。実際には、ガイド引率の義務付けは、これまでクマ出没により頻繁に閉鎖されていた時期に限った特別な体制である。8月からの植生保護期はレクチャーを受ければ誰でも入れるし、新たに完成する高架木道については、クマ出没の有無にかかわらず、いつでも誰でも自由に利用することができる。新たな五湖利用システムの全体像をきちんと周知していくことを意識しないと、(今後、五湖はガイド引率でしか入れなくなるなど) 不要な誤解を招く恐れがあると感じている。

**斜里町：**ガイドにクマ対策をやってもらうのか、あるいは別途クマ対策のスタッフでやるのかについては、これまでも議論はあり、クマ対策専門スタッフによる引率システムだと、管理側がすべてをコントロールすることになるのではないかという批判もあった。また、現実的に財政面等から行政が専門のスタッフを多数抱えるのは

困難である。そこで、地元のガイドさんがクマ対策部分も担えないかということでこのシステムが検討されてきた。ただ、必ずガイドでなくてはいけないのか否かは、また別の話としてある。そこは今後議論が必要。

**知床エコツアー推進協議会：**当初協議会で決めてきたことが、相当ぶれてきており、議論を戻さなければならないところもある。また進め方も、整理しなければならないと思う。議題を一通り進め、どこを集中的に議論するか考えたほうが良い。

**環境省：**そのように提案しようと考えていた。スケジュールにも関連することであり、一通り進めさせてほしい。

## ②利用のコントロールの担保措置について

**環境省：**資料2-1、2、3に基づき、利用のコントロールの法的担保措置について説明。

**ウトロ自治会：**ガイドの立場での話だが、先に実施した研修でも、ガイドが正しい判断をしていたケースでも、知床財団からは「この場合はガイド側の責任」という説明になっていた。また実験の際、ガイドは午後には天候が回復すると判断していたが、結局行政側の意向で中止が決まった。ガイドの判断をどれだけ尊重してくれるのか、ガイドが報告したことについて事実を歪めずに知床財団に認知してもらえるのかということについて、非常に不信感がある。この協議会の中で事故状況について議論した結果「行政の判断ミスだった」という結論がはたしてありうるのか。

**しれとこ・ウトロフォーラム21：**複数機関が構成する組織の場合、責任のたらい回しになることが良くある。責任の所在をあらかじめ明らかにすることは難しいかもしれないが、今後起こりうる問題を想定して、クリアにしておいて欲しい。

**環境省：**利用調整地区制度を実施する前後で違うのは、環境省がかなり責任を負う覚悟だということ。ただし、現場で起きたこと全てが環境省に責任があるというわけではないと思う。個別にシミュレーションが必要で、今後その点は密に相談をしていきたい。

**ウトロ自治会：**具体的に説明すれば、この前の研修の際、ガイド側としてはお客さんが騒いでしまったことが悪いと考えていたが、知床財団側はガイドが悪いという判断であった。管理者側の判断についてこちら側からチェックできない点を非常に危惧している。管理者側の判断の方法等は協議会で共有されていくものなのか。そういう事例は細かく沢山あると思うが、その検証をこの協議会が行うのか、そういう議論が必要である。

**斜里町：**この前の研修に対するご批判と、これからどうしていくのかということだと思うが、それはまさしくこの協議会で議論していくことだと考えている。責任の所在の議論というよりも、ケーススタディとしてきちんと積み上げて、現場に活かして

いくことが重要。また責任の分担というのはこの中ではできない。起こったことをきちんと評価していかなければならず、基本的な考え方を整理しておく必要がある。

**知床財団**：今は検証の場がなく、むしろこういった仕組みになることで、検証ができるようになり、今よりも良くなる部分があるのではないか。

**環境省**：問題が起こった時だけでなく、日々運用していく中で、その都度情報をいただき共有していくことで、システム全体がスキルアップしていくやり方を目指していかなければならない。

**しれとこ・ウトロフォーラム21**：この利用調整地区という枠組みが決まると、地域住民という視点でいろいろな制約が出てくる。観光やガイド目線ばかりで、個人の楽しみがあまり反映されないということになると、地元から反感を買うことになる。

**環境省**：利用調整地区にする中で、地元の方についてどのようにフォローしていくかという検討は必要だと考えている。

**知床ガイド協議会**：個人的な意見として、利用調整地区の適用は賛成である。責任問題については、ヒグマがいることがわかっている場所に連れて行って、事故が起こったという先行事例は無いはずで、どう考えても責任は出てくる。その時に果たしてガイドと行政がどこまで責任があるのかということを見解を示してもらえれば参考になる。また認定ガイドの同行の義務付けについて、山岳ガイド協会として妥協点はあるか。

**北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）**：妥協点はない。ガイドに対する責任の考え方の認識が非常に甘い。ガイドはお客さんを連れた時点で、最初から安全管理責任を負っている。ただし五湖のシステムに乗っていくことになれば、ガイドとしての責任はあるが、そのシステムの中でガイドがどのような役割を果たすのかということになる。過去の事例を見れば、国が謝らず、訴訟が長引いている事例ばかりである。責任について明確にしてほしい。それから利用調整地区の件で、自己責任ということも明確に言うのであれば、それを前提とした利用を明示すべき。

**知床ガイド協議会**：ガイドシステムは基本的に外せないということになると思うが、妥協点が無いということになると、この中で一緒に話をしていくことが難しい。

**環境省**：利用調整地区にすることについては、特に問題は無いか。

**知床エコツアーリズム推進協議会**：利用規制によって総量規制がかからないか明確にして欲しい。例えば、バス利用でしかいけないなど、具体的なことが明確に示されないと、利用調整の名のもと、いろいろなものに規制がかかってくることを危惧している。

**斜里町**：利用調整地区制度に関しては、地上歩道部分のヒグマ活動期、植生保護期などに限定した適用が前提である。アクセスの話までは想定していない。利用調整地区以外の担保方法については、これまで議論をしてきたが実現が難しい。

**環境省**：地上歩道の生態系を保護するために、徒歩の立ち入りを規制する制度とご理解

いただきたい。

**ウトロ自治会**：この協議会が、このまま利用適正化の協議会に移行するのか。

**環境省**：次回にはそのあたりを詳しくお話したいが、環境省の利用調整地区制度の協議会に移行していくことになる。新たに規約等を用意して、次回ご提案したい。なお、利用調整地区を取り下げることができるので、とりあえず利用調整地区を前提に進めたい。

### ③植生保護期の利用のコントロールについて

**環境省**：資料3 - 1、2、3に基づき、植生保護期の利用のコントロールについて説明。

**しれとこ・ウトロフォーラム21**：1番利用の多いコースである、1～2湖往復の短時間コースの設定はできないのか。

**環境省**：今の案では、1湖まで行った場合、その後高架木道になり、むしろ歩きやすい状況になる。

**環境省**：資料1の案1、案2についてはどちらが良いか。

**ウトロ地域協議会**：ガイドさんの中でどちらが良いか話はでていないか。

**知床ガイド協議会**：案1の中ループを利用する人はいないのではないかという意見がある。5～2湖まで見て、1湖を見ないで帰る人はいないだろう。

**ウトロ地域協議会**：2案が良いという意見が、ガイドさんでは多いということか。

**知床ガイド協議会**：本当は廃道と示している部分を使って、2湖1湖と見て帰れるのが良い。

**ウトロ地域協議会**：第2案で問題がなければそれでよいのでは。

**環境省**：第2案で進めさせていただく。

### ④受付施設の整備について

**環境省**：資料4 - 1、2に基づき、受付施設の案及びスケジュールについて説明。

**斜里町**：既存レストハウスの考え方および調整状況について説明。

- ・五湖園地全体の施設整備計画については、ちょうど1年前の地元協議会の際に、大まかなゾーニングを示した。
- ・基本方針としては、新たな利用システムを効率的に機能させ、現在不足している休憩等のサービス機能の向上させるため、この機会に全体整理を進めたいと話してきた。
- ・その後、地上歩道の利用ルールが合意に至った昨年12月の段階で、ユートピア知床と具体的な協議が始まった。町からは、10年、20年先を見据えたとき、老朽化を含めた問題を抱える現レストハウスを残したまま今回の全体整理を進めることは様々なデメリットがあるため、現施設は撤去を

前提に進めたいことを伝え、その後も協議を継続してきた。

- ・一方で、現レストハウスの「機能」の存続を強く求められていることから、町としても何らかの方策がないか検討してきた。
- ・そんな中、自然公園財団による「パークサービスセンター」整備の可能性が出てきたことから、町としては、現レストハウスを撤去するかわりに、その機能をパークサービスセンターに移すことで全体を整理していきたいと考えている。
- ・この案については、現時点でまだユートピア知床との合意には至っていないが、今後も引き続き協議させていただきたいと考えている。

**自然公園財団：**参考資料に基づき、パークサービスセンターの計画について説明。

- ・あくまでも無料休憩施設という位置づけ。
- ・施設規模は200㎡程度、事業費は上限5,000万円。
- ・助成を受けて行う予定だが、資金手当については公園財団が責任をもって行う。
- ・電気についてはできるだけCO2排出削減できる方法を検討している。
- ・助成金の申請は10月上旬が期限であり、そのためには9月上旬には図面をつけた整理が必要。
- ・大前提として、町が必要とする施設であること（町有地）、環境省の事業認可が得られる施設であること（国立公園）が条件。

**知床斜里町観光協会：**ユートピアとして発言する。現在までこの協議会において、毎回レストハウスについて協議を求めてきたにもかかわらず、たった2回の協議で、急に結論を求める姿勢は、これまで築いた信頼関係を壊すものである。会社としては、期限は決めないで協議させて欲しいと申し入れはしてきており、期限を決めないということは、町長も議長も聞いており、納得しているはず。期限を決めず、1年でも2年でも3年でも議論すべき。我々の会社としてもこのレストハウスのあり方というのは経営の存続に関わる問題、基盤であるので、正式な協議をしながら、時間をかけてもらいたい。

**斜里町：**急に結論をとということではなく、この後協議をして最終的に決めていくということである。従ってこの場でプランを示させていただいた。もちろん町のレストハウスが現状維持ということであれば、全体の配置計画は変わってくる。その辺の調整はさせていただきたい。ただ経過の話で、見解の相違かもしれないが、ゾーニングについては昨年7月頃に示させていただいたと思う。ただし考え方の提示のみで中身の議論はしていない。12月1日にはルールが決まったら検討させて欲しいと説明し、同12日だったと思うが、このままで行けばレストハウスの撤去で終わってしまうので他の方法を検討したいとお話させていただいたつもりである。その段



階では切り札が無く、撤去しかないのか、あるいは環境省の施設の中で営業ができるのか等、環境省と協議をさせていただいた。ただ、営業規模や内容は極めて限定的なものになってしまうので現実的ではないだろうということも確認した上で、自然公園財団のパークサービスセンターの話が出てきて、実現性があるのかを検討した。それで直近になってしまったかもしれないが、方向性としてはそれを導入し、この中で何とか営業を継続できるような形を検討させていただきたいという状況である。結論を今日この場で求めないということも環境省にもお願いしてある。最終的にどうなるかはわからないが、案を示さなければ前に進まないので提案させていただいた。もちろんそれに向けて何回か話し合いもさせてもらった。たった2回とお話されたが、もう少ししてきたつもりである。合意に到っていないのは承知しており、町としては、レストハウスの機能を何とか維持することを主眼に考えていることを理解していただきたい。

**知床エコツーリズム推進協議会：**5,000万円が限度というのはどういうことか。今重要な機能を果たしているのはレストハウスとトイレである。北海道のトイレがあつたまま残るのはいかななものか。施設としてお客さんへのPRの対象となってくるため、再整備について積極的に論議してもらいたい。また事業主体が別だから別々の建物になるという考え方ではなく、お客さんの利用、コストの面を配慮し、出来れば一体に整備できないか。

**斜里町：**現レストハウスがおよそ250㎡、レクチャー施設の案が約300㎡になっている。もう一つのパークサービスセンターが約200㎡ということで、屋根のあるエリアが倍くらい確保できる。その中で、レクチャーの機能を中心に環境省に整備してもらい、その他、休憩等の機能についてパークサービスセンターが担うことになる。そのパークサービスセンターには休憩機能のほかに、お客さんに飲食等を提供するような機能を取り入れられないかを検討している。基本的にはこれらを一体的な建物にはできないということである。トイレについては、将来的な希望はあるが、とりあえず最低限の施設を整備していければと思っている。

**知床エコツーリズム推進協議会：**トイレは重要な役割があるので上手く取り込んで一体的に出来ないか。北海道のトイレは壊す予定はないのか。

**網走支庁：**今の施設の維持管理、修理はしていくが、新たに作ることは考えていない。不必要だということで取り壊すことは可能。

**ユートピア知床：**案内施設、パークサービスセンターの大まかな内容はあるが、駐車場を含めて全体のゾーニングのようなものは出来ているのか。

**環境省：**検討中である。今の駐車場スペースそのものは変える予定はないが、レストハウスのスペースも含めたエリアで、施設の配置を検討していく。

**ユートピア知床：**5,000万とあるが、もし助成金を受けられない場合、施設規模等が変わるのか。

**自然公園財団:** 5,000万、200㎡ということで事業を実施したいと思っているが、もし仮に助成金が予定額に満たない場合は、不足分を財団で補填して事業を実施するつもりである。

**ユートピア知床:** これらは一つの案として出ていて、今後ユートピア知床と協議をしていくということで良いか。

**斜里町:** レストハウスを既存のまま残すことは、全体の配置計画にも影響を与える。またレストハウスの老朽化の問題もあり、何年か経てばいずれ取り壊さなければならないということをご理解いただきたい。そこで、レストハウス機能を何とか維持するために今回の案のような考え方があるので、これをご理解いただけるよう、引き続き説明をしていきたい。また、現状のレストハウスの売店と休憩所の面積割合を見ても、売店面積が広く、環境省の基準からしてもあまり良い状態ではなく、このまま継続することには問題がある。レストハウスを壊さないという選択肢ではなく、今後20～30年を考えると、できれば今回の施設整備と協力し合いながら進めていきたいと思っている。

**知床エコツーリズム推進協議会:** レクチャー実施により10～15分の滞留が想定され、レストハウスの存在は非常に大きい。ぜひお客さんのことを考えて施設の検討をしてもらいたい。休憩のスペースは必ず必要である。

**斜里町:** 施設整備には水まわりの課題やエネルギーの課題がある。特別保護地区の中で、これまでのように重油をどんどん使って発電するようなことにはならない。そういう制約もあることをご理解いただきたい。

**知床民宿協会:** 自然公園財団の施設の水道整備は斜里町に任せるのか。量は間に合うのか。

**斜里町:** 各施設の設備はそれぞれが整備し、供給は斜里町が行うことになる。特に量が増えるような施設整備は想定していない。また施設の概要ができた段階で検討が必要。

**知床エコツーリズム推進協議会:** 施設の全体の計画は最終的に誰がまとめるのか。

**環境省:** 現レストハウスの扱いの方向性を地元で整理していただいた上で、環境省で全体の計画は取りまとめる。

**知床斜里町観光協会:** レクチャー施設をつくる期限、レストハウスを撤去する期限というのは切っていないという理解でよいか。

**環境省:** 受付施設を作るためには遅くとも半年前には設計にかかりたいので、この年末には仕上げるようなスケジュールで進めたい。

**知床斜里町観光協会:** 結局時間を決めてきている。レストハウスを取り壊さなくても整備はできるのではないのか。

**環境省:** 全体の動線を考えると、レストハウスが撤去された前提で計画を考えたい。ただし、撤去しないということであれば、今空いているスペースに建設するしかない。

知床斜里町観光協会：以前、施設整備が間に合わない場合、仮のプレハブで進めるという話も出ていたが、あり得るのか。

環境省：この場合のプレハブというのは、工事を継続しながらということである。

知床斜里町観光協会：そうであれば4月から10月までの営業がどうなるのか。

斜里町：それは環境省が検討する事項ではなく、斜里町との協議事項である。

ウトロ自治会：ユートピア知床の生む雇用は大きく、出入りの業者も多いので自治会としても大変興味を持っている。レストハウスを壊してしまうので無くなるということにはせず、雇用が失われないようお願いしたい。

#### ⑤高架木道の設計・施工について

北海道庁：資料5-1に基づき、終点展望台の形状、構造について説明。

環境省：資料5-2に基づき、高架木道の標識について説明。

知床斜里町観光協会：11月2日頃まで売店が営業しているので、ヘリコプター輸送のスケジュールなどは調整して欲しい。

北海道庁：工事の詳細が決まり次第、ご連絡する。

知床エコツーリズム推進協議会：去年の工事に伴い、冬季利用の関係で、道路の除雪をしてもらっていたので、工事前に事前に打ち合わせさせていただきたい。

斜里町：環境省の整備した高架木道が完成することに伴い、斜里町の整備した木道については役目を終えたと判断し、今年の秋頃を目処に撤去をしたいと考えている。了解いただきたい。

#### 議題2. 利用調整の開始時期について

環境省：資料6に基づき、スケジュールについて説明。

施設関係の課題、ガイド実験を踏まえた課題、観光広報の課題等から、当初予定の平成22年度スタートではなく、23年度スタートにすることを提案。

知床エコツーリズム推進協議会：22年度は間に合わない。観光関係だけでなく、利用者のことを考えると、事前にきちんと周知が必要。植生保護期の施設の作り方も、現場も含めて精査が必要。この計画では10分、50名は捌けない。また認定制度の部分も、実験や研修を経て、採点方法が示されていないなど、ガイドはかなり疑問を持っている。

知床斜里町観光協会：施設の問題が非常に大きい。時間をかけしっかりした議論をお願いしたい。

知床民宿協会：バスの利用者の間からはテレビなどの報道を見て、五湖の煩雑さを敬遠し、観光船に行くのではないかという話がすでに出ている。観光やバス業者に対して丁寧に説明をしないと敬遠されるため、時間をかけた方がよい。

**環境省**：報道では規制が前面に出されがちであり、全体的なシステムを広報する必要がある。環境省本省からの話として日本旅行業協会への説明会を予定しているため、その場でしっかりとPRしていきたい。

**知床エコツーリズム推進協議会**：部会のスケジュール等今後の進め方は決まっているのか。

**環境省**：来年度の今頃までには全て決まっていけないとならない。次回9月の協議会では、新たに移行する協議会の規約の他、部会の構成やスケジュールについてお示ししたい。

閉会

以上

別紙 知床五湖の利用のあり方協議会（第3回）出席者

	機関名	出席者氏名
構成機関	ウトロ自治会	藤崎 達也
	ウトロ地域協議会	松本 鉄男
	自然公園財団	金盛 典夫
	斜里バス(株)	菅原 英人
	知床エコツーリズム推進協議会	上野 洋司
	知床エコツーリズム推進協議会	松田 光輝
	知床エコツーリズム推進協議会	高木 規好
	知床温泉旅館共同組合	鈴木 完也
	知床ガイド協議会	綾野 雄次
	知床ガイド協議会	鈴木 謙一
	知床ガイド協議会	関口 均
	知床財団	増田 泰
	知床財団	寺山 元
	知床斜里町観光協会	青木 憲一
	知床斜里町観光協会	喜来 規幸
	しれとこ・フォーラム21	吉川 和成
	知床民宿協会	梅沢 征雄
	知床民宿協会	桂田 鉄三
	ユートピア知床	上野山 文男
事務局	環境省釧路自然環境事務所	則久 雅司
	環境省釧路自然環境事務所	二戸 治
	環境省釧路自然環境事務所	長谷川 修一
	環境省ウトロ自然保護官事務所	中村 仁
	北海道自然環境課	角谷 栄政
	北海道自然環境課	大和田 収
	北海道網走支庁環境生活課	大館 弘幸
	北海道網走支庁環境生活課	槇塚 貴稔
	斜里町総務環境部	村田 良介
	斜里町環境保全課	百々 典男
	斜里町環境保全課	岡田 秀明
専門家	北海道大学 大学院	愛甲哲也
	北海道大学 大学院	庄子 康